

病害虫発生予察情報

東京都病害虫防除所

向こう1ヶ月(10月)の予報

〒190-0013 立川市富士見町 3-8-1
Tel 042-525-8236 Fax 042-529-0943

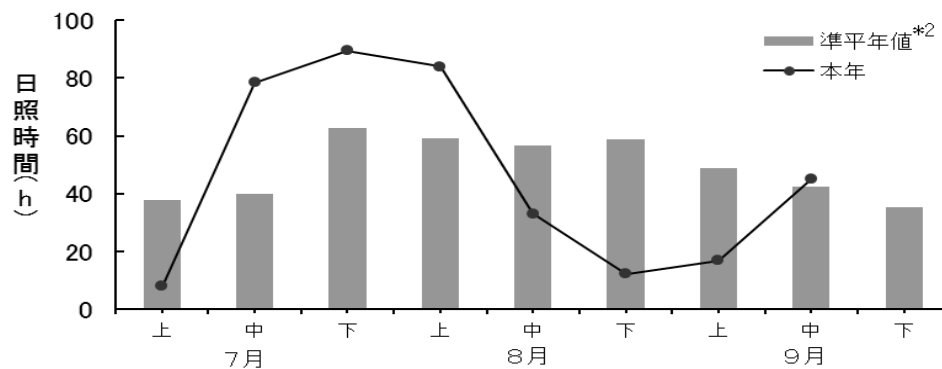
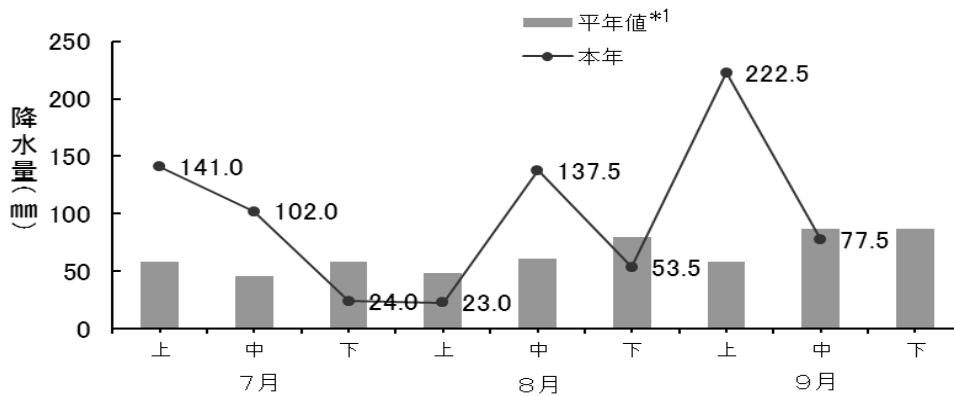
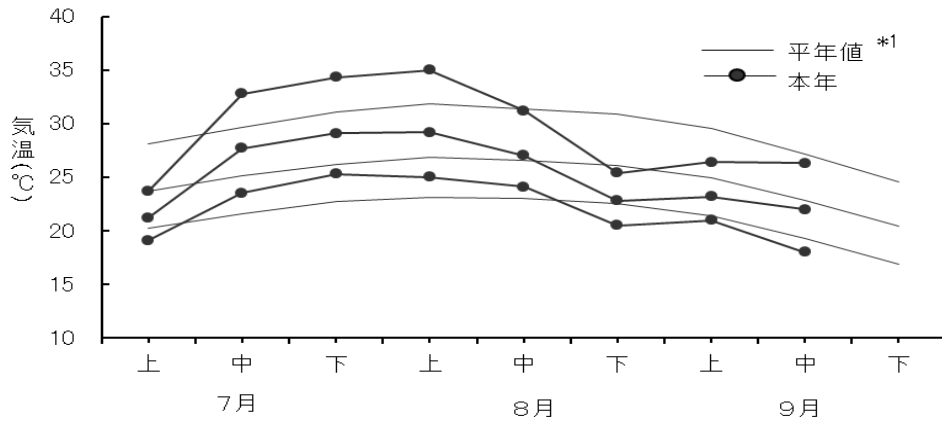
平成27年度 予報第6号

http://www.jpnp.ne.jp/tokyo
e-mail: S0200303@section.metro.tokyo.jp

【気象予報】2015年9月24日 気象庁 地球環境・海洋部発表, 関東甲信地方の1か月予報より

確率	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	40	30	30
	降水量	30	40	30
	日照時間	20	40	40

【気温・降水量・日照時間の経過】 平年値及び準平年値と本年の9月中旬までのデータを示した (東京都府中市 気象庁気象観測所データ)



*1: 1981-2010の平均値, *2: 1987-2010の平均値

野菜の病害虫の発生に注意しましょう！！

秋野菜の植え付けの始まる8月中旬から不順な天候が続き、軟腐病や黒腐病をはじめとする細菌性病害が発生しています。細菌性病害は病勢の進展が早く、多発すると防除が難しくなりますので、注意が必要です。

★ 圃場を注意深く観察し、初発生を見逃さないようにしましょう。

★ 風雨による傷や害虫の食害痕より細菌が侵入するため、害虫防除を行うとともに、大雨の後は天候が回復次第、防除指針を参考に薬剤散布を行いましょ

う。
害虫ではヨトウガの発生が増えてきています。あっという間に食害が拡大する恐れがありますので、早めの防除を心掛けましょう。

I 果樹の病害虫（各根拠に記した()内記号は発生助長要因の強度を示す）

1. カメムシ類（チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ）

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) フェロモントラップ及び予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数は、やや少ない。(－)
- 2) 主要な餌であるスギ、ヒノキ科植物の球果量はやや少ないと推定される。そのため、当年世代の発生量は少ない。(－)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

II 茶樹の病害虫

1. 炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を認めたら防除指針に従い早めに防除する。

2. カンザワハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では寄生葉率は0%であった。(－)
- 2) 年間の発生消長は今後やや増加傾向を示す(越冬世代となる)。(＋)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生の多い園では防除指針に従い防除する。

Ⅲ 野菜の病害虫

1. キャベツ, ブロッコリー, ハクサイ, ダイコンの細菌病(軟腐病, 黒腐病, 黒斑細菌病)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査ではいずれの作物でも発生はやや多い。(＋)
- 2) 気象予報によれば気温は低く, 降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 病原細菌は害虫の食害痕などから侵入するので, 害虫の防除を徹底する。
- 3) 台風や強風の後には直ちに薬剤を散布する。

2. コマツナおよびカブの炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は少ない。(－)
- 2) 気象予報によれば気温は低く, 降水量は平年並と予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

3. コマツナおよびカブの白さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は少ない。(－)
- 2) 気象予報によれば気温は低く, 降水量は平年並と予想される。(＋)
- 3) 今後, 増加期に向かう。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

4. アブラナ科野菜のコナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では, 全般的に発生は少ない。(－)
- 2) フェロモントラップ調査では誘殺数は少ない。(－)
- 3) 年間の発生消長は今後やや増加する。(＋)
- 4) 気象予報によれば気温は低く, 降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針を参照して作物ごとに防除する。

5. アブラナ科野菜のハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では, 各地ともアブラナ科作物での発生は少ない。(－)
- 2) 年間の発生消長は今後減少に向かう。(－)
- 3) 気象予報によれば気温は低く, 降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 作物ごとに防除指針に従い防除する。また防除指針のハイマダラノメイガの項を参照する。
- 2) 播種後から寒冷紗などの被覆資材により成虫の侵入を防止する。

6. アブラナ科野菜のヨトウガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、寄生株率5% (キャベツ、ハクサイなど) で平年並である。(±)
- 2) フェロモントラップ調査では誘殺数は多い。(＋)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針を参照して作物ごとに防除する。

7. アブラナ科野菜のキスジノミハムシ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は少ない。(－)
- 2) 年間の発生消長は、今後減少に向かう。(－)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 播種後から寒冷紗などの被覆資材により侵入を防止する。

8. ナスうどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生はやや多い。(＋)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

9. キュウリ褐斑病 (施設)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

10. キュウリうどんこ病 (施設)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生はやや多い。(＋)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 防除の際には、葉裏面にも薬剤が良くかかるように散布する。
- 3) 施設内の過湿に注意する。

1 1. ホウレンソウベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(一)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を認めたら防除指針に従い防除する。
- 2) 施設では、密植・過灌水に注意する。

1 2. ネギさび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(一)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を認めたら防除指針に従い早めに防除する。

1 3. ネギ黒斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

1 4. ネギハモグリバエ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では発生量はやや少ない。(一)
- 2) 年間の発生消長は、今後減少に向かう。(一)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(一)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

1 5. ネギアザミウマ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では発生量はネギでは平年並みである。(±)
- 2) 年間の発生消長は、今後減少に向かう。(一)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(一)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針を参考にして防除する。

16. 野菜共通 コナジラミ類

予報内容

発生量 オンシツコナジラミ：並
 タバココナジラミ：やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では発生量はオンシツコナジラミ、タバココナジラミともに平年並である。(±)
- 2) オンシツコナジラミは今後増加期にあたる。(＋)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 0.4mm 目合いの防虫ネットやUV カットフィルムの展張など、物理的防除に努める。
- 2) 都内ではタバココナジラミのうちバイオタイプ Q が占めているため、タイプ Q に有効な薬剤を選択し、適正に使用する。
- 3) トマト黄化葉巻病発病株は発見次第、直ちに抜き取って処分する。

17. 野菜共通 ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、発生量は少ない。(－)
- 2) フェロモントラップ調査では、誘殺数はやや多い。(＋)
- 3) 今後も発生は継続する。(＋)
- 4) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 卵塊で産卵されるので若齢幼虫が分散しないうちに葉ごと切除し処分する。
- 2) 発生を見たら防除指針に従い防除する。

18. 野菜共通 オオタバコガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生量は少ない。(－)
- 2) フェロモントラップ調査の誘殺数はやや少ない。(－)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 果菜類の幼果や花き類の蕾を好むため、被害果や被害花蕾は放置せず、速やかに処分する。
- 2) キャベツ、ハクサイ、トマト、ナス、インゲン、ピーマンなどのほか、バラ、キク、シクラメンなども加害する。
- 3) 防除指針を参考にして防除する。

IV 花きの病害虫**1. シクラメンのホコリダニ類**

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)
- 2) 気象予報によれば、気温は低いと予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 花蕾や新葉の奇形を確認したら、10倍以上のルーペ等で観察するか、不明な場合は病害虫防除所や普及センターに相談する。

2. 花き共通 灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では発生量は少ない。(－)
- 2) 今後、増加期に向かう。(＋)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従って薬剤を散布する。
- 2) 施設では朝晩の加湿・結露に注意する。
- 3) 同一系統の薬剤を連用せず、ローテーション散布を行う(薬剤耐性菌の発生回避)。

防除所ホームページアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/tokyo>

☆ 病害虫の発生予報，発生状況，防除方法などをお知らせしています。

☆ 防除指針（平成27年版）公開中！
(防除指針正誤表等最新情報をご確認下さい)

☆ 農薬に関する詳しい情報は，農林水産省ホームページの「農薬コーナー」をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>